



※写真はイメージです 実際の製品仕様と異なる場合があります

485系北近畿・キハ65形エーデル丹後



◆実車ガイド

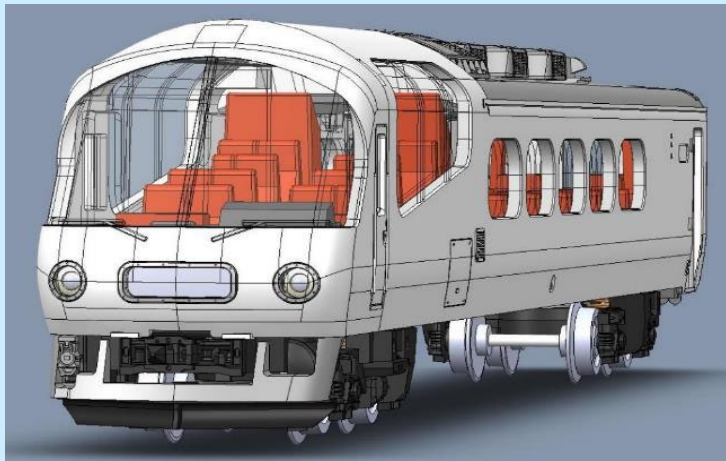
- ・485系は直流、交流50/60Hzの3電源に対応した特急用車両として1968年に登場し、全国の電化区間で活躍しました
- ・「北近畿」は新大阪～城崎を結んだ特急列車で、1986年11月のダイヤ改正で福知山線宝塚～福知山間、山陰本線福知山～城崎間が電化されたことにより登場しました
- ・各地より集められた485系が使用され、多様な改造車や4両または6両編成と短い編成であることが特徴でした
- ・1990年頃より「北近畿」の485系は交流機器を取り外し、183系800番代へと改造されました
- ・キハ65形エーデル丹後は1988年に登場したジョイフルトレインです
- ・同名の列車「エーデル丹後」は新大阪～天橋立を一部区間北近畿タンゴ鉄道宮福線(現: 京都丹後鉄道宮福線)に乗り入れる形で結ぶ臨時特急として1988年7月16日に運転を開始しました
- ・新大阪～福知山間は485系による特急「北近畿」との併結運転を行い、上り・下りのいずれの列車においても無動力で485系の編成後部に連結し、けん引される形で運転をされました
- ・「北近畿」と「エーデル丹後」の併結は、「タンゴディスカバリー」が登場し「北近畿」との併結運転を開始、合わせて「エーデル丹後」が廃止となる1996年までの間見ることができました

【文責: トミーテック】

◆ここがポイント

POINT:1

キハ65形エーデル丹後を新規製作で再現



POINT:2

485系北近畿の各先頭車は前面形状が特徴的なクロハ481形214番、クハ481形802番を再現

クロハ481形214番

クハ481形802番



※画像は旧製品を組み替えしたイメージです

各画像は試作、開発中のものです 実際の製品仕様とは異なる場合があります

◆製品化特徴

- ・ハイグレード(HG)仕様
- ・485系北近畿とキハ65形エーデル丹後の併結による列車を再現【485系北近畿】について
- ・前面形状が特徴的なクロハ481形214番、クハ481形802番を再現
- ・印刷済みトレインマーク「北近畿」装着済み
- ・ATS車上子パーツ付属
- ・トイレタンクは取付済み
- ・車番、靴摺り、ドアレール、JRマーク、グリーンカーマークは印刷済み
- ・JNRマークは転写シート付属
- ・ヘッド・テールライト、トレインマークは常点灯基板装備、ON-OFFスイッチ付
- ・ヘッド・テールライト、トレインマークは電球色LEDによる点灯
- ・トレインマークはカラープリズムの採用により白色に近い色で点灯
- ・フライホイール付動力、新集電システム、黒色車輪採用
- ・M-13モーター採用
- ・先頭車運転台側は胴受が小型のTNカバー(SP)標準装備
- ・各連結面側は配管付きTNカバー(SP)標準装備

<別売りオプション>
室内灯: <0733>LC白色

【キハ65形エーデル丹後】について

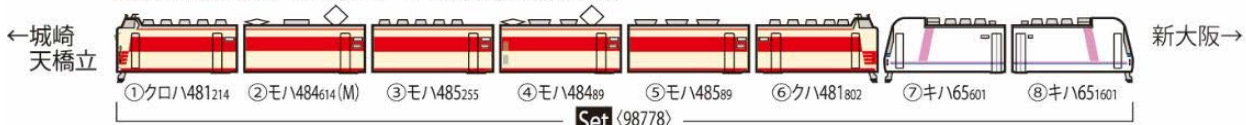
- ・キハ65形エーデル丹後を新規製作で再現
- ・印刷済みトレインマーク「エーデル丹後」装着済み
- ・車番は印刷済み
- ・ヘッド・テールライト、トレインマークは常点灯基板装備、ON-OFFスイッチ付
- ・ヘッドライトは電球色、テールライトは赤色で点灯
- ・トレインマークはカラープリズムの採用により白色に近い色で点灯
- ・新集電システム、黒色車輪採用
- ・TNカバー(SP)標準装備

<特記事項>

- ・キハ65形エーデル丹後にはモーターを搭載していません

■セット内容・編成例

●特急「北近畿9・16号」「エーデル丹後」(1988年頃)



※「エーデル丹後」は、新大阪～福知山間で「北近畿9・16号」と併結、上下列車共に編成最後部に連結されました。

品番	98778	品名	JR 485系・キハ65形(北近畿・エーデル丹後)セット	セット両数	8両
発売月	2024年8月	JANコード	4543736987789	予価	¥37,400 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	218×304×34mm	パッケージ形態	ブック型ブラケース

JR西日本商品化許諾済